

初の取り組み！ 博物館展示ガイド



岡山県立博物館では、本年度企画展「発掘・発見・そして未来へ - 津島遺跡からのメッセージ -」（平成17年9月1日～10月2日）の期間中、日曜日・祝日を中心に10日間、本館として初めて、ボランティアによる展示ガイドをお願いしました。

現在、博物館は、活動を進めていく上で、地域の人々との連携が重要な課題の一つとなっています。また近年、生涯学習への関心が高まり、博物館も生涯教育を担う施設として期待され、地域住民の学習の場として、さらにその成果を生かす場として整備することが求められています。そんな折、本館にも昨年4月に「博物館友の会」が設立され、「友の会」との連携を考える中で、来館者からの要望の多い展示ガイドの検討をしてきました。

展示ガイドの活動は、博物館、来館者、ガイドの三者それぞれにとって、大きな意義があると思っています。まず、博物館にとっては、外部の地域住民の視点が加わることによって、博物館活動の拡充が図れます。次に、来館者にとっては、ガイドの方と同じ住民の立場から、親しみやすい雰囲気の中で、博物館を身近に感じてもらえるのではないかと思います。そして、何よりガイドをし

てくださる方自身にとって、学習の成果や蓄積してこられた知識を社会に還元でき、そのことによって幸福感や達成感を感じていただけるのではないかと思います。

今回、友の会会員を中心に、10名の方が展示ガイドに応募してくださいました。その方たちには、津島遺跡の現場や展示室などで計3回の事前研修を受講していただき、本番では2人一組でガイドに当たっていただきました。ガイドの方には、「来館者とのコミュニケーションを深めてもらい、展覧会の楽しみを伝えてほしい。」とお願いしていました。何人かの方のガイドの様子を拝見させていただきましたが、皆さん、博物館が好きで誇りに思ってくださいている方たちばかりですので、その前向きさや知識と感動を伝えたいという気持ちが来館者にも伝わっているのを感じました。ガイドの方々からも、「いい勉強をさせてもらい、やりがいも感じた。」との声をいただき、意義ある活動ができたと思っています。

来館者アンケートの展示ガイドについての感想では、

- ・ガイドをしていただきとても興味深く展示をみることができました。良かったです。
（10代女性・奈良県）
- ・ボランティアガイドさん良かったです。
（50代男性・奈良県）
- ・熱意が良くわかり、古代に興味ももてるようになりました。
（50代女性・大阪府）

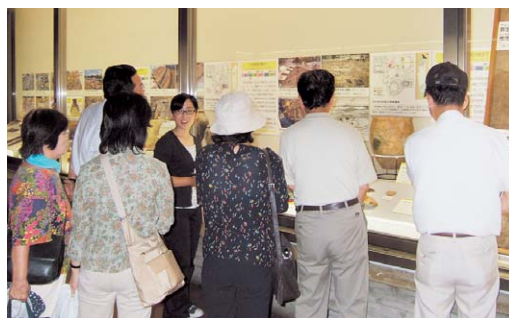




- ・津島全般についての分かりやすいガイドが印象に残った。 (60代女性・岡山市内)
- ・大変ていねいに説明していただき、質問にも対応してもらえた。 (50代男性・岡山市内)
- ・説明を聞くことができてよかった。
(50代女性・岡山市内)
- ・説明を聞いてから展示を見てよくわかった。
(60代男性・倉敷市)

など、とても好評だったことがわかります。

今後、博物館にこのような展示ガイドが定着するまでには、事前研修の場や期間の設定、資料の専門性や特殊性をどこまで理解していただけるかなど課題も多く、まだまだ相当の時間が必要でしょう。しかし、これを機に地域の人たちとの連携の可能性についても、検討していきたいと考えています。



— 展示ガイドをやってみて — 松浦 公子

いにしへのページを開くのは誰でしょう。未来の扉をたたくのは誰でしょう。

津島に暮らした古代の人々のエネルギーが満ち溢れた、280点に及ぶ展示品に囲まれてのボランティアガイドでした。使命を終えた数多くの遺物が飾られた展示室は、大げさではありますが、私にとって最初は地球の自転が止まったかのような光景でした。津島の人々の和によって平野の一角から何かが始まり、文化の創造と継承が繰り返されながら住み継がれてきた津島遺跡。稲穂を渡る風や集落を潤した水の語り、土地や土や木に対する愛着、ひいては自然を頼りにし大切にしてきた当時の人々への敬意を、数々の展示品が教えてくれるようでした。

嬉しかったことの一つに、ツアーガイドの30～50分の間に初対面のお客様同士、それに私も加えていただき、昭和40年代の津島の写真を見ながら次々と会話が飛び交い、ついには「昭和～年ごろには～大学の～学部にはいたんだけど...。」「僕も同じころ～学部にはいたよ。」という具合に貴重な思い出話も聞かせていただいたことです。昔どこかですれ違っていたかもしれないお二人は、弥生時代後期の特殊な器台についても熱く語っておられました。

また、展示品の中に、昭和20年から64都市を焼き尽くし、岡山にも約10万発を落とす、アメリカの爆撃機集団による焼夷弾の信管がありま

した。このガイド中、高齢の女性の方が、今の情報の豊かさに比べ当時の情報の無さについて、東京空襲を避けるため疎開した帰りの汽車の窓から、焼け野原になった神戸の姿を見て全く何も知らなかったことに落胆した、と言っておられました。本当なら交わることのない人同士が博物館で語り合うことによって記憶の中の日本が現在とつながった気がしました。

私は「遺跡&スポーツミュージアム」(桃太郎スタジアム内にある津島遺跡・人見絹枝さん・有森裕子さん関連の展示室)に勤務しております関係で、お客様から戦火を逃げ惑われた体験、特攻隊の最後を見送られた時の貴重なお話などを聞かせていただくことが少なくありません。

最後になりましたが、御指導いただきました皆様方、関係者の方々へ深く感謝いたしますと同時に、日々絶えず研究を重ねられ、私たちが数多く残る文化財に親しむ機会を提供して下さいますことに御礼申し上げます。



館蔵資料の御紹介

～備前市新庄天神山古墳出土の石枕せきまくら～

古墳時代の常設展示品のなかに、ひときわ目立つ朱色に彩られた石製品があります。その名のとおり、石を加工して作った死者の枕です。大きさは、横幅が手前で45cm、後側で52cm、前後幅は31cm、高さ14cmです。重さは、なんと37kgもあります。材質は砂岩と思われます。写真のように、上面は中心部とその手前が人間の後頭部から後頸部にかけての形に彫り窪められています。また、その窪みと本体の縁辺に沿って幅約2.5cm、高さ1～10mmの突帯(手前になるほど低い)をめぐらせたような形に加工されていて、精密でかなり高度な技術が観察されます。底を除く表面には水銀朱が塗布されていて、荘厳さも感じさせます。

新庄天神山古墳は昭和22年に発掘され、この石枕は石棺内部に備え付けられていたとされています。主体となる石室や石棺の構造や遺物の出土状況などは、当時京都大学教授の梅原末治氏が発掘関係者から入手した覚書をもとに紹介されています。棺内の遺物に限れば、石枕とそれに頭を置いて上向きで体を伸ばして葬った人骨、石枕の上面に1

個の勾玉と多数の管玉、両腕の位置には各1つの釧くし(碧玉・貝)があり、そのほか棺と側壁の間の石室床面にも鉄剣・鉄斧・鉄鏃なども多数あったとされます。

最近の研究では、この石枕はすぐ近くの花光寺山古墳からの出土ではないかとの説もあり、今後は残された遺構・遺物の正確な情報を得るための学術調査が望まれています。(柳瀬昭彦)

参考文献：梅原末治「岡山県下の古墳調査記録(1)」『瀬戸内海研究』第八号 1956年



こんなこともやっています！ 学芸員実習の受け入れをして

本年度も学芸員を目指す学生の実習を受け入れています。資料の扱い方、写真の撮り方などを、実際に行いながら学びます。

学芸員も、学生の真摯な姿から、自分の仕事への姿勢を改めて考える機会となりました。

学芸員実習を受講して

神戸女子大学 宮本玲子

岡山県立博物館で7月28・29日と8月6・7・9日の5日間、学芸員資格のための実習をしました。私は兵庫県内の大学に通っているのですが、地元が岡山県という事で、岡山県立博物館に実習をお願いする事になりました。学芸員資格のために大学で授業が開講されているのですが、やはり説明が大半になってしまうので、今回の様に実際に資料に触れて体験できるというのはすごく良い機会になりました。

実習の内容としては、掛け軸の取り扱い方や写

真の撮り方、焼き物の扱い方など様々な分野の基礎を学芸員の方々に丁寧に教えていただきました。

館内の展示や展示構成についての説明などもしてもらいました。また、自分がお客さんとして来館した際には絶対に入る事のできない収蔵庫や燻蒸設備なども見せていただきました。実習の後半では、博物館で開催されている様々な催しの補助係として学芸員の仕事の大変さを体験しました。このような体験行事に参加してみて、博物館の役割というのは本当に様々であると感じました。

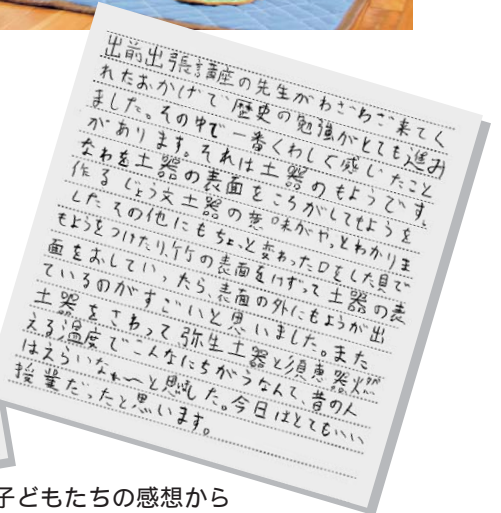
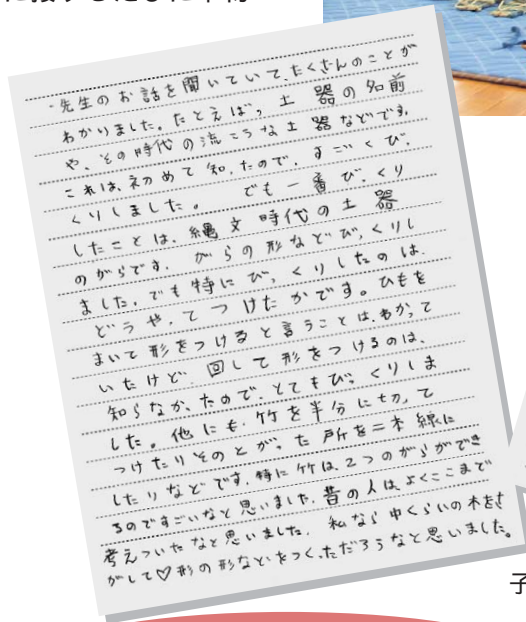
博物館が『資料・美術品・歴史的遺物・学術的資料などを広く収集・保管し、これを組織的に陳列して公衆に展覧する施設。またその資料などの調査研究を行う機関。』であるという事を身をもって体験することができました。学芸員の仕事は本当に様々で、色々な工夫やアイデアが必要であり『雑芸員』と言われるという事がとても印象に残っています。私もこれから様々な事を身に付けて、様々な事をこなせる学芸員となるべく努力したいと思います。5日間ありがとうございました。

百聞は一見にしかず

学校への出前講座

4年目を迎えた今年度は小・中学校合わせて延べ13回（10/31現在）行いました。社会科の授業だけでなく総合的な学習の時間やクラブ活動への依頼もあり、先生方が、博物館の資料を活用しようとしてくださることは大変うれしいことです。実物資料を目の前にした子どもたちのきらきらした眼や実際に触れてあがる歓声に接するたびに本物の持つ力のすばらしさを改めて感じます。

江戸時代の鎧や鉄砲を身に着けて大きさ、重さ、細工の細かさなどを体験する「本物の鎧を着てみよう」への授業依頼が多いのですが、博物館にはまだまだ多くの資料があります。今後これらの資料を生かした学習や博物館で展示を目の前にした学習も考えていきたいと思ひます。



子どもたちの感想から

ただいま準備中！

企画展 岡山の年中行事 -正月・豆まき・おひなさま-
~春をみる・あそぶ~

会期 | 平成18年1月5日(木)~1月29日(日)

私たちの身近にある年中行事の多くが、いま失われつつあります。この企画展では、岡山県内各地の正月~春の行事を取り上げ、郷土の風土や歴史を考えます。また、「展示ガイド」も行います。



雛人形



とんど

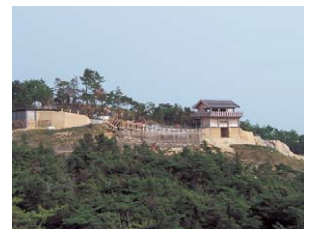
特別展 吉備の渡来文化 -渡り来た人々と文化-

会期 | 平成18年2月3日(金)~3月5日(日)

古代吉備の繁栄に大きな役割を果たした渡来文化。この特別展では吉備の渡来文物から、その実像に迫ります。また、朝鮮半島の技術でつくられた古代山城、鬼ノ城を歩く「こども歴史探検隊」を行います。



八幡大塚2号墳 金製垂飾付耳飾



鬼ノ城(総社市)

岡山県立博物館だより 第64号

発行日/平成17年11月10日

発行者/岡山県立博物館 館長 能登原 巧

〒703-8257 岡山市後楽園1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



R100
古紙配合率100%、白色度70%の
再生紙を使用しています